

# 多様なニーズに挑む岡山協立病院の真価

岡山協立病院は、地域の皆さんが安心して受診できる総合病院として、多岐にわたる診療科を備えています。幅広い症状や健康上の不安に対応する総合診療科をはじめ、生活習慣の改善を支える肥満外来も開始しました。近年健康への影響が注目されている有機フッ素化合物、PFAS問題にもいち早く対応するなど、地域の医療ニーズに応える取り組みを広げています。

岡山協立病院は、紹介状がない場合でも選定療養費がかからず、体調に不安を感じた時に気軽にかかれる病院です。「どの診療科にかかればよいか分からない」「いくつかの症状があつて不安」「大きな病院は少し緊張する」。そうした方にとっても、身近に相談できる入り口があることは大きな安心につながります。

■外来に増えていた「小さな困りごと」  
岡山協立病院の外来には、1日に約400人

くらた・ゆみこ 2000年、総合病院岡山協立病院に入職。病棟師長、外来統括師長を経て、22年10月から副看護部長。25年、認定看護管理者



教育課程サードレベル修了。外来療養サポートチームの活動を通して、地域包括ケアシステムを支える外来看護の充実に取り組んでいる。

## ③ 通院の不安を安心に変える「外来療養サポートチーム」が支える安心の通院

岡山協立病院副看護部長 倉田 弓美子



患者の不安に耳を傾ける外来療養サポートチームの看護師

の患者さんが訪れます。近年は、つえをついて来院される方、院内で道に迷う方、受け付け後に次の行き先が分からず困る方など、外来での「小さな困りごと」が増えています。背景には、地域の高齢化や一人暮らし世帯の増加、コロナ禍による外出機会の減少に伴う体力・日常生活動作の低下があります。

これまでも職員が個々の気づきで対応してきましたが、2025年5月から「外来療養サポートチーム」をスタートさせました。長年の経験を持つベテラン看護師・プラチナナースを中心に、院内案内、車椅子での移動介助、受診相談、検査場所への誘導などを行い、患者さんが安心して受診できる体制を構築しています。

■「診察室の外」にも目を向けるチーム  
このチームが大切にしているのは、診察室の中だけでなく、その前後にある患者さんの不安にも目を向けることです。受付で戸惑っている方に声をかける。道に迷っている方を案内する。何げない会話の中から体調や認知機能の変化に気づく。そうした小さな関わりが安心した通院につながっています。

また、受診時の困りごとの背景には生活上の不安が隠れていることもあります。通院手段がない、薬の管理が難しい、退院後の生活が心配。そのような場合には、医療ソーシャルワーカーや地域包括支援センター、ケアマネジャーなどの必要な相談先につなぐ役割も担っています。

■「点」だった支援を「線」につなげる  
チームの発足により、これまでその場限りになりがちだった支援が、外来・病棟・相談窓口・地域へとつながる「線」の支援へ広がりました。退院後に通院が難しくなりそうな患者さんを病棟から引き継いだり、受診が途切れそうな方へ電話で状況を確認したりするなど、治療や生活が途切れないよう継続的な支援も行っています。

「病院に来たけれど、どうしたらよいか分からない」「一人で受診するのが不安」。そんな時に、気軽に声をかけられる存在でありたい。岡山協立病院の外来療養サポートチームは、患者さんの小さな不安に寄り添い、通院の不安を安心に変える取り組みを進めています。

どの方が外来療養サポートナースですか？

この腕章が目印です

「困った」を見逃さず  
支え合う体制へ

岡山協立病院 (086-2772-2121)